

急性虚血性脳卒中におけるガングリオシド (Draft 翻訳*)

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

最終改訂年月 : 17 June 2001

背景: ガングリオシドには、中枢神経系と末梢神経系に対する保護作用があると考えられている。

目的: 本レビューの目的は、急性虚血性脳卒中における外因性ガングリオシドの効果について評価することであった。

検索戦略: Cochrane Stroke Group trials register (最終検索2001年5月)を検索し、製薬会社と選択した試験の主な研究者と連絡をとった。

選択基準: 虚血性脳卒中が確定または疑われる患者を対象とし、ガングリオシドをプラセボまたは標準的治療と比較しているランダム化試験。症状発症から15日以内に患者がランダム化されており、死亡率のデータが入手可能な試験を選択した。

データ収集分析: 1名のレビューアが基準を適用した。2名のレビューアが独立にデータを抽出し、試験の質を評価した。

主な結果: 2265名が含まれている12件の試験を選択した。いずれの試験でも、精製モノシアロガングリオシド GM1が用いられていた。ランダム化法が述べられていた試験は3件のみであった。追跡期間は15~180日間であった。追跡終了時点での死亡には有意差が示されなかった(オッズ比0.91、95%信頼区間0.73~1.13)。早期治療(48時間以内)と後期治療との差は示されなかった。障害に関し、3件の試験ではバーセル指数スコアにガングリオシドによる改善はなかった(加重平均差2.1; 95%信頼区間-4.8~8.9)。2件の試験では、8名の患者がガングリオシド投与の中止に至る有害作用を経験し、7名には皮膚反応、1名にはギラン・バレー症候群の発現が認められた。

レビューア見解: ガングリオシドが急性脳卒中に有用であると結論付けられるほどのエビデンスは得られていない。ガングリオシド療法後にはギラン・バレー症候群の散発例が報告されているため、注意が必要である。

Citation: Candelise L, Ciccone A. Gangliosides for acute ischaemic stroke. The Cochrane Database of Systematic Reviews 2001, Issue 4. Art. No.: CD000094. DOI: 10.1002/14651858.CD000094.

Clib issue No.: 2005 issue 4

CRG名: Stroke

* ご注意: この日本語訳は、試験的翻訳(Draft 翻訳)版として公開するものであり、翻訳の正確さや質が保証されたものではありません。訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡下さい。また、この試験的翻訳版はコクラン・ライブラリ2005年issue 4に掲載されたレビュー・アブストラクトの翻訳です。コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されていますので、ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認下さい。